

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1591300239		
法人名	社会福祉法人 遊生会		
事業所名	高齢者グループホームまいらいふ燕		
所在地	新潟県燕市小関1389番地4		
自己評価作成日	令和5年1月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=1591300239-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県介護福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2-2-2		
訪問調査日	令和5年2月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成30年5月1日にオープンし、4年が経過したグループホームです。まだまだ発展途上の施設ですが、プロとしての自覚を持ち、「ご利用者様のお気持ちを最優先に」という法人の基本理念と「笑顔・思いやり・気づき」という法人の介護理念を忠実に守り、ご利用者様本位のサービス提供に努めています。また令和4年の4月に施設理念「自立支援で元気を創る」を策定し、全職員が理念の実践に向けて取り組んでいます。

職員一人一人が「ご利用者様お一人お一人にとって最適な関わりとは？」と常に考えながら、皆で意見を出し合い、日々の介護を行っております。試行錯誤の連続ですが、そのような取り組みの中で、職員同士のチームワークも向上し、職員の定着率も向上してきていると実感しています。

ここでの生活がご利用者様にとってより充実したものになり、認知症の症状緩和や進行の抑制につながるよう、サービスの質の向上を積み重ねていきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○丁寧な運営推進会議の取組

「グループホームまいらいふ燕」は地域密着型事業所として5年目を迎える。工業地帯に立地しており、住宅、商店も少なく、日常の暮らしのなかで近隣住民との交流もままならない環境である。コロナ禍のため、地域行事の参加制限も加わり地域での暮らしを作りだすことに模索し続けている現状が見える。そのような中、事業所の広報誌を自治会の回覧板に周知してもらい、事業所の様子を地域の方々に伝え、2ヶ月毎に開催する運営推進会議は地域住民、地域関係者との重要な交流の機会となっている。会議はコロナ禍のため紙面開催が続いているが、事業所の運動会、紅葉狩り、避難訓練など、利用者の暮らしの報告、各委員会報告、今後の予定など、事業所内の暮らしを丁寧に詳細に伝えている。丁寧な説明には委員より提案、ねぎらいの言葉、意見が返信されている。運営推進会議での提案、検討から自治会長が避難訓練に参加するなど、少しずつ地域の一員という関係性が作られている。コロナ終息後には地域の保育園との交流を考えているとの言葉も聞かれた。運営推進会議を糸口としてこれから地域での役割を果たそうという意気込みが感じられた。

○複合施設内での連携と情報の共有の取組

特別養護老人ホームが併設され事業所の運営の取り組みなど、協力できる体制が整えられている。中でもユニットごとに入浴設備を設けているが同じ入浴設備ではなく、一般浴から座って入浴できる設備とグループホームで2種類の入浴設備があり、更に特別養護老人ホームの特殊浴槽を利用できるといった利用者の身体状況に合わせて入浴することが可能である。施設には地域交流スペースがあり、現在はコロナ禍でほとんど使用されていないが、利用の工夫次第で地域の方と、交流を深めるいい環境が用意されている。また、コロナ禍の中、家族と疎遠になってしまいがちだが、受診の付き添いは家族で対応してもらっている方が殆どのため、定期的に家族と会える機会となっている。受診の結果等も受診後に家族と共有しその内容についてケース記録と申し送りに記載し、職員間で情報の共有が図られている。